

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「テンプレトン世界債券ファンド」は2021年6月21日に決算（限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコースは第21期、毎月分配型・為替ヘッジなしコースは第125期）を行いました。当ファンドは主として世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行い、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

〈テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

第21期末(2021年6月21日)	
基準価額	9,665円
純資産総額	3,779百万円
第21期	
騰落率	△ 2.8%
分配金(税込み)合計	10円

〈テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

第21期末(2021年6月21日)	
基準価額	14,017円
純資産総額	3,300百万円
第21期	
騰落率	3.8%
分配金(税込み)合計	10円

〈テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース〉

第125期末(2021年6月21日)	
基準価額	10,429円
純資産総額	144百万円
第120期～第125期	
騰落率	3.8%
分配金(税込み)合計	150円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

テンプレトン世界債券ファンド

限定為替ヘッジコース

為替ヘッジなしコース

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

(愛称:地球号)

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

限定為替ヘッジコース／為替ヘッジなしコース

第21期(決算日2021年6月21日)

作成対象期間：2020年12月22日～2021年6月21日

毎月分配型・為替ヘッジなしコース

第120期(決算日2021年1月20日)

第121期(決算日2021年2月22日)

第122期(決算日2021年3月22日)

第123期(決算日2021年4月20日)

第124期(決算日2021年5月20日)

第125期(決算日2021年6月21日)

作成対象期間：2020年12月22日～2021年6月21日



FRANKLIN
TEMPLETON

フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社

(旧フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社)

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

〈お問い合わせ先〉

電話番号：03-5219-5947

(営業日の9:00～17:00)

ホームページ：<https://www.franklintempleton.co.jp>

お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記〈お問い合わせ先〉ホームページの「ファンダー一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

〈テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2020年12月22日～2021年6月21日)



期首：9,955円

期末：9,665円 (既払分配金(税込み):10円)

騰落率：△ 2.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2020年12月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY-H1」(以下、JPY限定為替ヘッジ・クラスといいます。)の分配金再投資基準価額が値下がりしたことから、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「**■投資環境**」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動
- ・米ドル売り円買いの為替予約取引等による為替ヘッジコスト

1 万口当たりの費用明細

(2020年12月22日～2021年6月21日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	52 円	0.535 %	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(11)	(0.110)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	52	0.539	
期中の平均基準価額は、9,810円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

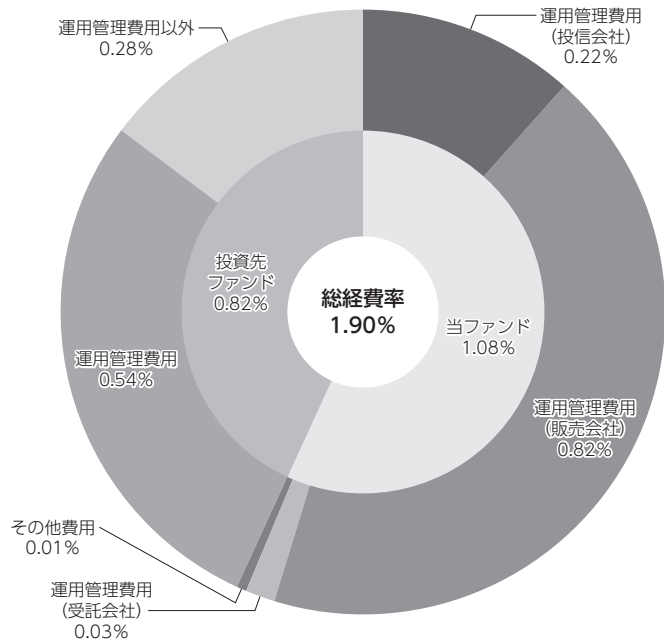
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.90%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.90
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.28

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年6月20日～2021年6月21日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年6月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年6月20日 決算日	2017年6月20日 決算日	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日	2021年6月21日 決算日
基準価額 (円)	10,043	11,314	10,767	11,002	10,015	9,665
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	12.9	△ 4.7	2.4	△ 8.8	△ 3.3
純資産総額 (百万円)	6,055	6,168	5,156	5,043	4,222	3,779

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ-テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2020年12月22日～2021年6月21日)

(債券市場)

当期の米国債券市場は、中長期債を中心に利回りが上昇（価格は下落）しました。

期の前半は、新型コロナウイルスのワクチンが実用化されるとの期待が高まり、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことから、利回りは上昇しました。また、バイデン新政権による追加景気対策に対する期待により、国債増発の観測が広がったことから、利回りの上昇が続きました。

期の半ばは、ワクチン普及による経済活動の正常化や景気回復による物価上昇の可能性が意識されたことなどから、利回りは下支えされました。

期の後半は、足元のインフレは一時的との見方などから利回りは低下（価格は上昇）する場面もありましたが、2021年6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）がタカ派的と受け止められたことなどから利回りの低下は限定的となりました。

欧州債券市場は、中長期債を中心に利回りが上昇しました。

期の前半は、概ね一進一退の展開となりましたが、新型コロナウイルスのワクチン実用化による世界景気の回復期待が広がり、投資家のリスク回避姿勢が後退する場面で利回りは上昇しました。

期の半ばは、バイデン政権の景気対策効果に対する期待などから米国債利回りが上昇した影響で、ドイツの国債利回りも上昇しました。

期の後半は、欧米各国などでのワクチン接種の進展により、引き続き世界景気の回復期待が広がったことなどが、利回りを下支えしました。

新興国債券の利回りは、新型コロナウイルスのワクチンへの期待と主要先進国債券の利回りが上昇したことから、利回りは全般に上昇しました。

(外国為替市場)

当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。

期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融緩和策の長期化観測が広がる中、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、米国債利回りが上昇し、日米金利差の拡大が意識されたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。

期の半ばは、米国債利回りが上昇基調で推移し、日米金利差が拡大したことから、米ドルは対円で上昇しましたが、その後FRBによる金融緩和策の長期化が改めて意識されたことなどから、米ドル売り・円買いが一時優勢となる局面がみられました。

期の後半は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による米国景気の回復期待が高まる中、米ドルは底堅い動きとなりました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。

期の前半は、一進一退の動きとなりましたが、新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待が高まり、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。

期の半ばから後半にかけては、欧州主要国でワクチンの普及が加速し、景気の回復期待が広がったことなどから、ユーロは対円で上昇しましたが、2021年6月のFOMCがタカ派的と受け止められ、米ドルが対ユーロで上昇したことなどから、期末にかけてユーロは対円で下落しました。

新興国通貨は、対円で概ね上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年12月22日～2021年6月21日)

(テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ノルウェー、メキシコ、日本などへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、米ドル、韓国ウォン、円を買建する一方で、ユーロなどを売建しました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

なお、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Y 限定為替ヘッジ・クラス」において、ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り・円買いの為替予約取引等により、対円での為替ヘッジを行ないました。

(2021年5月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年12月22日～2021年6月21日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2020年12月22日～2021年6月21日)

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきますました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第21期
	2020年12月22日～ 2021年6月21日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.103%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,327

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド: テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス)

○市場見通し(2021年5月末時点)

新型コロナウイルス向けワクチン接種の普及が世界各地に拡がることで、経済状況も引き続き回復に向かうと考えています。人々の活動が再開し始めることで、経済活動も2021年下半年に活発化すると期待しています。新型コロナウイルスの抑制状況は国によって異なるため景気回復の状況もまちまちなと思われるかもしれませんが、引き続きアジア諸国がグローバル経済の回復をけん引し、出遅れていた米国経済についても急回復が予想されます。

運用チームでは2021年の世界経済の成長率は6%程度となり、新興国市場の成長率が先進国市場を上回ると予想しています。世界の国内総生産(GDP)成長率は2022年、2023年と緩やかになる可能性が高いものの、コロナ禍から景気が正常のペースに戻る中、世界経済の成長率は過去10年の平均もしくは平均を上回る水準で推移すると考えます。

○運用方針

基本戦略においては、ポートフォリオのデュレーションは短めに維持します。強固なファンダメンタルズを有し、魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の現地通貨建ての債券や一部の先進国の債券を中心に選別的に保有します。なかでも韓国、インドネシアなどの現地通貨建て債券を保有しています。また、通貨では、韓国ウォン、円、人民元、ノルウェークローネ、米ドルなどをロングとし、ユーロをショートとしています。

新型コロナウイルス向けワクチンが普及することで経済活動の回復が期待されることから、特にアジア諸国について前向きな見通しを持っています。今後もマクロ経済のファンダメンタルズやE S G要因を精査し、中長期的に投資妙味がある国の発掘に努めてまいります。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社は、2021年4月1日にレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社と合併し、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社となりました。

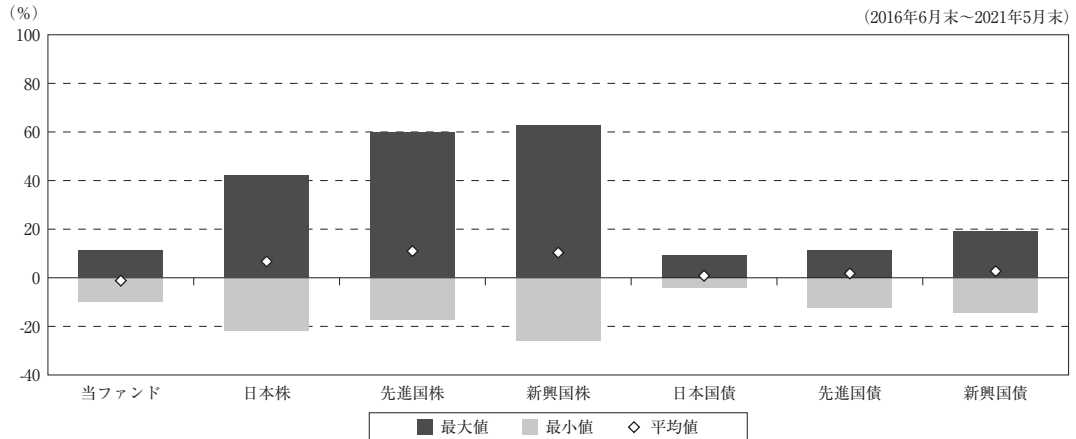
委託会社の合併に伴い、ファンドの委託者の商号を変更することに伴う所要の約款変更を行いました。
(2021年4月1日付)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY-H1 ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY-H1）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.5	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 9.9	△ 22.0	△ 17.5	△ 26.0	△ 4.0	△ 12.3	△ 14.5
平均値	△ 1.2	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年6月から2021年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・デバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

〈テンプレトン世界債券ファンド 限定為替ヘッジコース〉

組入資産の内容

(2021年6月21日現在)

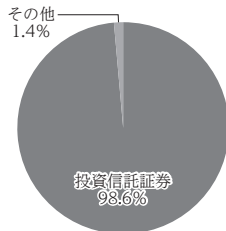
○組入上位ファンド

銘	柄	名	第21期末
			%
フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY-HI			98.5
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)			0.1
組入銘柄数			2銘柄

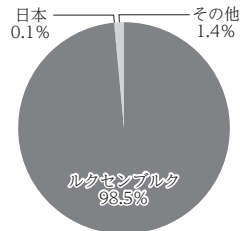
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

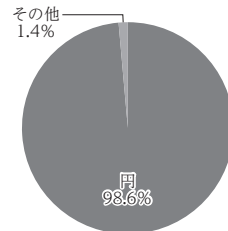
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

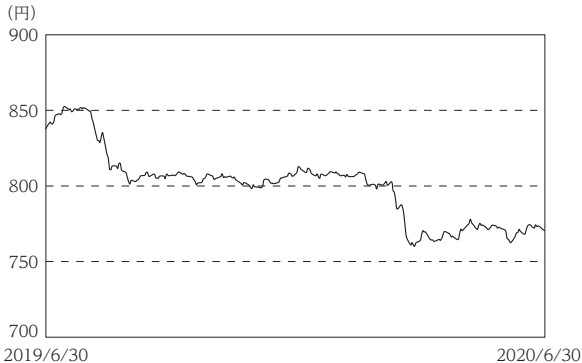
項目	第21期末
	2021年6月21日
純資産総額	3,779,954,260円
受益権総口数	3,911,037,581口
1万口当たり基準価額	9,665円

(注) 期中における追加設定元本額は16,908,211円、同解約元本額は105,457,907円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2019年7月1日～2020年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2019年7月1日～2020年6月30日)

項 目	比 率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.28%
合計	0.83%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) JPY-H1の数値です。
(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

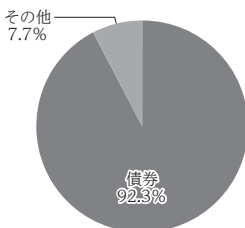
(2020年6月30日現在)

銘 柄 名	通 貨	比 率
Government of Sweden, 1047, 5.00%, 12/01/20	スウェーデンクローナ	6.71%
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 12/10/29	韓国ウォン	5.74
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 08/11/20	日本円	5.59
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 08/24/20	日本円	5.54
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 09/10/20	日本円	5.16
Government of Mexico, senior note, M, 7.25%, 12/09/21	メキシコペソ	3.45
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 09/10/21	韓国ウォン	3.43
Government of Mexico, senior bond, M, 6.50%, 06/09/22	メキシコペソ	3.22
Letra Tesouro Nacional, Strip, 07/01/20	ブラジルレアル	3.14
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 07/06/20	日本円	3.08
組入銘柄数	80銘柄	

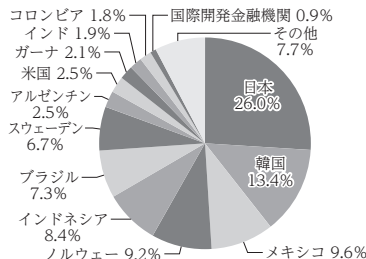
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

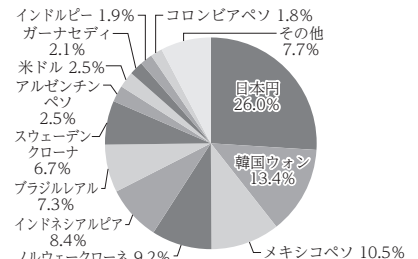
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

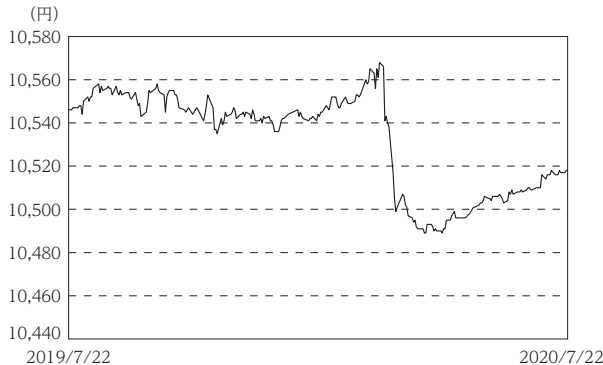


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2020年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2019年7月23日～2020年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

(2019年7月23日～2020年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	15 (12) (1) (2)	0.143 (0.110) (0.011) (0.022)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用)	0 (0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	15	0.146	
期中の平均基準価額は、10,532円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

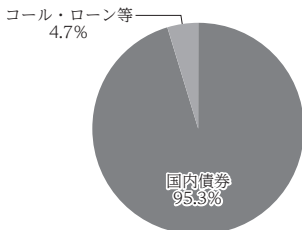
○組入上位 10 銘柄

(2020年7月22日現在)

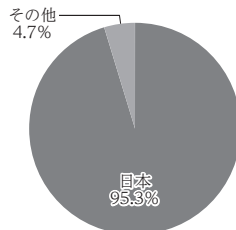
	銘 柄	種 類	国	業 種 / 種 別	比 率 %
1	第19回みずほ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	6.0
2	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
3	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
4	第17回シティグループ	債券	日本	社債	5.9
5	第75回アコム	債券	日本	社債	5.8
6	第48回韓国産業銀行(2018)	債券	日本	特殊債	5.8
7	第16回東京センチュリーリース	債券	日本	社債	5.8
8	第15回Zホールディングス	債券	日本	社債	5.8
9	第5回イオンフィナンシャルサービス	債券	日本	社債	5.8
10	第8回ケーティー	債券	日本	社債	5.8
組入銘柄数			19銘柄		

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

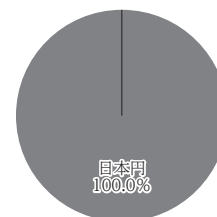
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



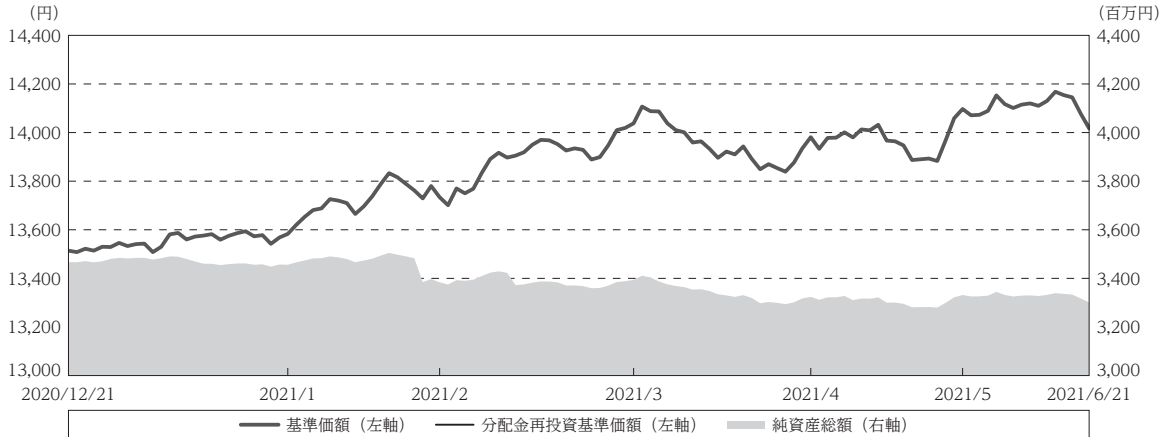
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含まみます。

〈テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2020年12月22日～2021年6月21日)



期首：13,514円

期末：14,017円（既払分配金(税込み):10円)

騰落率： 3.8%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2020年12月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドといたします。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといたします。)の分配金再投資基準価額が値上がりしたことから、当ファンドの分配金再投資基準価額は上昇しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

1 万口当たりの費用明細

(2020年12月22日～2021年6月21日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	74 円	0.535 %	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(15)	(0.110)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(57)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.004	(b) その他費用 = $\frac{\text{[期中のその他費用]}}{\text{[期中の平均受益権口数]}}$
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	75	0.539	
期中の平均基準価額は、13,827円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

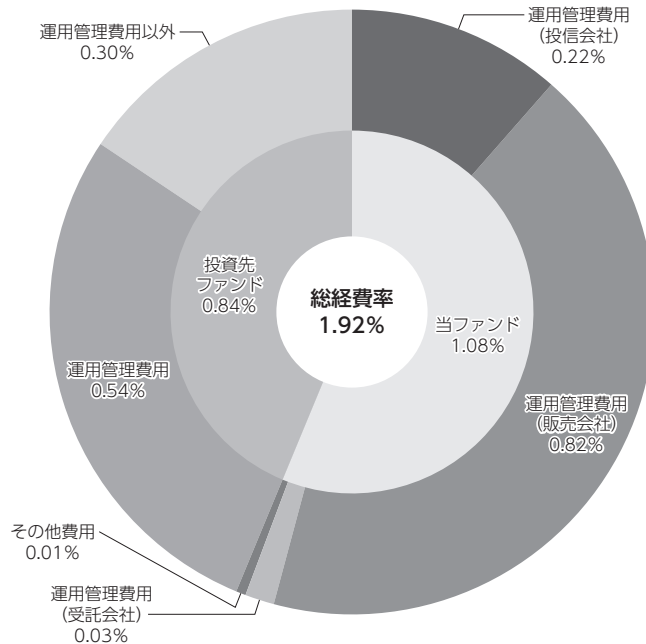
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.92%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.92
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.30

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年6月20日～2021年6月21日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年6月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年6月20日 決算日	2017年6月20日 決算日	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日	2021年6月21日 決算日
基準価額 (円)	12,682	15,401	14,735	15,190	14,006	14,017
期間分配金合計(税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	21.6	△ 4.2	3.2	△ 7.7	0.2
純資産総額 (百万円)	6,508	6,422	5,145	4,776	3,915	3,300

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2020年12月22日～2021年6月21日)

(債券市場)

当期の米国債券市場は、中長期債を中心に利回りが上昇（価格は下落）しました。

期の前半は、新型コロナウイルスのワクチンが実用化されるとの期待が高まり、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことから、利回りは上昇しました。また、バイデン新政権による追加景気対策に対する期待により、国債増発の観測が広がったことから、利回りの上昇が続きました。

期の半ばは、ワクチン普及による経済活動の正常化や景気回復による物価上昇の可能性が意識されたことなどから、利回りは下支えされました。

期の後半は、足元のインフレは一時的との見方などから利回りは低下（価格は上昇）する場面もありましたが、2021年6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）がタカ派的と受け止められたことなどから利回りの低下は限定的となりました。

欧州債券市場は、中長期債を中心に利回りが上昇しました。

期の前半は、概ね一進一退の展開となりましたが、新型コロナウイルスのワクチン実用化による世界景気の回復期待が広がり、投資家のリスク回避姿勢が後退する場面で利回りは上昇しました。

期の半ばは、バイデン政権の景気対策効果に対する期待などから米国債利回りが上昇した影響で、ドイツの国債利回りも上昇しました。

期の後半は、欧米各国などでのワクチン接種の進展により、引き続き世界景気の回復期待が広がったことなどが、利回りを下支えしました。

新興国債券の利回りは、新型コロナウイルスのワクチンへの期待と主要先進国債券の利回りが上昇したことから、利回りは全般に上昇しました。

(外国為替市場)

当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。

期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融緩和策の長期化観測が広がる中、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、米国債利回りが上昇し、日米金利差の拡大が意識されたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。

期の半ばは、米国債利回りが上昇基調で推移し、日米金利差が拡大したことから、米ドルは対円で上昇しましたが、その後FRBによる金融緩和策の長期化が改めて意識されたことなどから、米ドル売り・円買いが一時優勢となる局面がみられました。

期の後半は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による米国景気の回復期待が高まる中、米ドルは底堅い動きとなりました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。

期の前半は、一進一退の動きとなりましたが、新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待が高まり、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。

期の半ばから後半にかけては、欧州主要国でワクチンの普及が加速し、景気の回復期待が広がったことなどから、ユーロは対円で上昇しましたが、2021年6月のFOMCがタカ派的と受け止められ、米ドルが対ユーロで上昇したことなどから、期末にかけてユーロは対円で下落しました。

新興国通貨は、対円で概ね上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年12月22日～2021年6月21日)

(テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ノルウェー、メキシコ、日本などへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、米ドル、韓国ウォン、円などを買建する一方で、ユーロなどを売建しました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

(2021年5月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年12月22日～2021年6月21日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2020年12月22日～2021年6月21日)

当期の収益分配につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して次表の通りとさせていただきます。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第21期
	2020年12月22日～ 2021年6月21日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 0.071%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,912

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド：テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

○市場見通し(2021年5月末時点)

新型コロナウイルス向けワクチン接種の普及が世界各地に拡がることで、経済状況も引き続き回復に向かうと考えています。人々の活動が再開し始めることで、経済活動も2021年下半年に活発化すると期待しています。新型コロナウイルスの抑制状況は国によって異なるため景気回復の状況もまちまちなと思われるかもしれませんが、引き続きアジア諸国がグローバル経済の回復をけん引し、出遅れていた米国経済についても急回復が予想されます。

運用チームでは2021年の世界経済の成長率は6%程度となり、新興国市場の成長率が先進国市場を上回ると予想しています。世界の国内総生産(GDP)成長率は2022年、2023年と緩やかになる可能性が高いものの、コロナ禍から景気が正常のペースに戻る中、世界経済の成長率は過去10年の平均もしくは平均を上回る水準で推移すると考えます。

○運用方針

基本戦略においては、ポートフォリオのデュレーションは短めに維持します。強固なファンダメンタルズを有し、魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の現地通貨建ての債券や一部の先進国の債券を中心に選別的に保有します。なかでも韓国、インドネシアなどの現地通貨建て債券を保有しています。また、通貨では、韓国ウォン、円、人民元、ノルウェークローネ、米ドルなどをロングとし、ユーロをショートとしています。

新型コロナウイルス向けワクチンが普及することで経済活動の回復が期待されることから、特にアジア諸国について前向きな見通しを持っています。今後もマクロ経済のファンダメンタルズやE S G要因を精査し、中長期的に投資妙味がある国の発掘に努めてまいります。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社は、2021年4月1日にレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社と合併し、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社となりました。

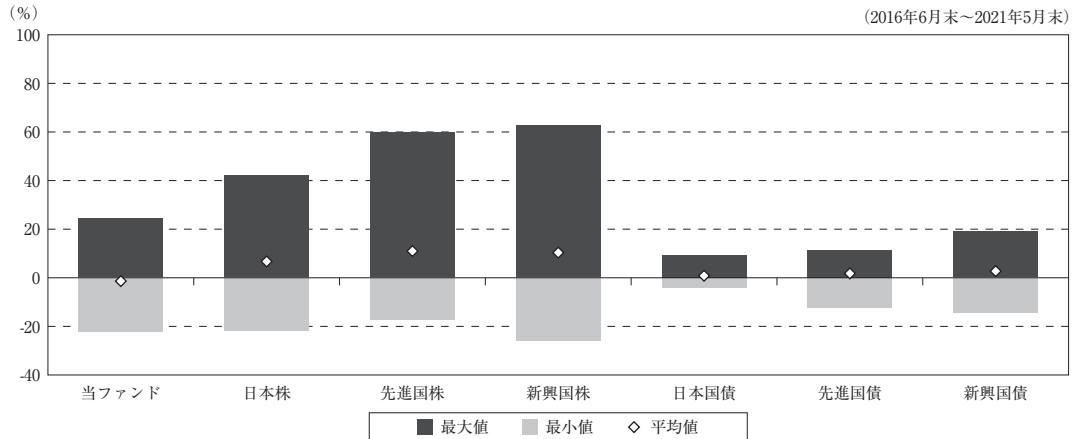
委託会社の合併に伴い、ファンドの委託者の商号を変更することに伴う所要の約款変更を行いました。
(2021年4月1日付)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じて、わが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年6月および12月の20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	24.5	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 22.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 26.0	△ 4.0	△ 12.3	△ 14.5
平均値	△ 1.4	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年6月から2021年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI 国債

先進国債…FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

〈テンプレートン世界債券ファンド 為替ヘッジなしコース〉

組入資産の内容

(2021年6月21日現在)

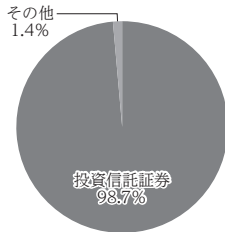
○組入上位ファンド

銘	柄	名	第21期末
			%
フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズ	テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis)	JPY	98.3
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)			0.4
組入銘柄数			2銘柄

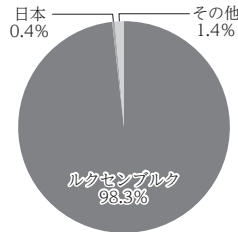
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

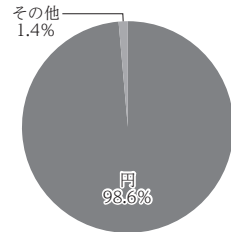
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

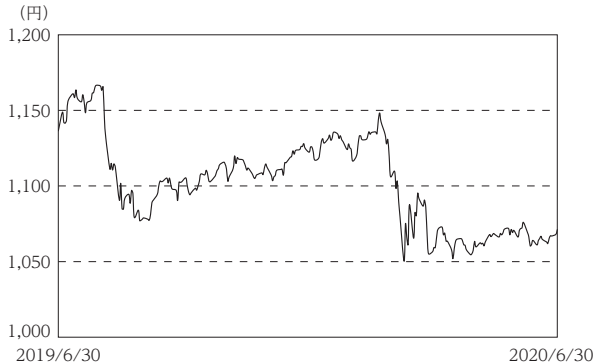
項目	第21期末
	2021年6月21日
純資産総額	3,300,788,252円
受益権総口数	2,354,851,206口
1万口当たり基準価額	14,017円

(注) 期中における追加設定元本額は51,871,894円、同解約元本額は262,183,808円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレートン・インベストメント・ファンズーテンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド
(2019年7月1日～2020年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2019年7月1日～2020年6月30日)

項 目	比 率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の数値です。
(注) 1 万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

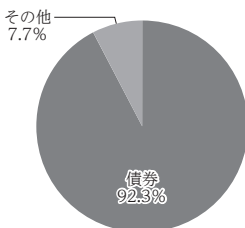
(2020年6月30日現在)

銘 柄 名	通 貨	比 率
Government of Sweden, 1047, 5.00%, 12/01/20	スウェーデンクローナ	6.71%
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 12/10/29	韓国ウォン	5.74
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 08/11/20	日本円	5.59
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 08/24/20	日本円	5.54
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 09/10/20	日本円	5.16
Government of Mexico, senior note, M, 7.25%, 12/09/21	メキシコペソ	3.45
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 09/10/21	韓国ウォン	3.43
Government of Mexico, senior bond, M, 6.50%, 06/09/22	メキシコペソ	3.22
Letra Tesouro Nacional, Strip, 07/01/20	ブラジルリアル	3.14
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 07/06/20	日本円	3.08
組入銘柄数		80銘柄

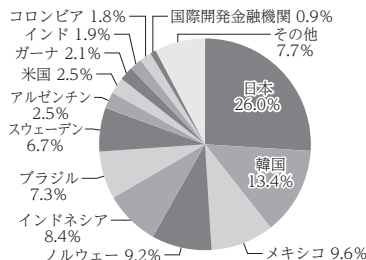
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

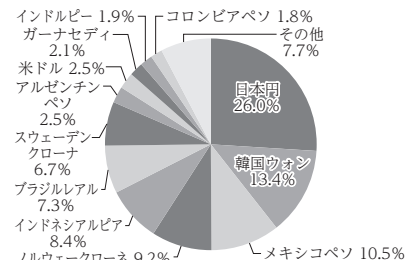
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

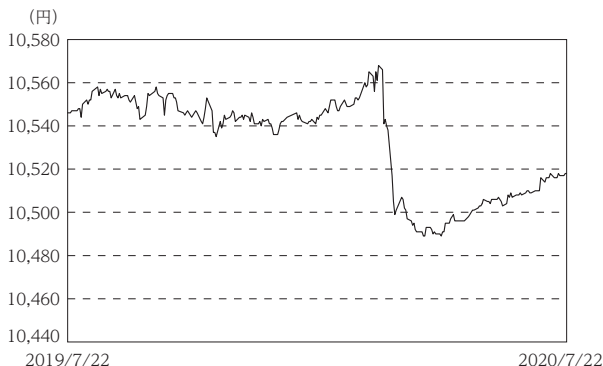


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2020年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2019年7月23日～2020年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

(2019年7月23日～2020年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	15 (12) (1) (2)	0.143 (0.110) (0.011) (0.022)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用)	0 (0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	15	0.146	
期中の平均基準価額は、10,532円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

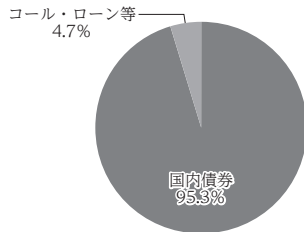
○組入上位 10 銘柄

(2020年7月22日現在)

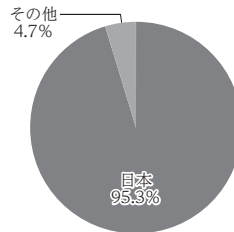
	銘 柄	種 類	国	業 種 / 種 別	比 率 %
1	第19回みずほ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	6.0
2	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
3	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
4	第17回シティグループ	債券	日本	社債	5.9
5	第75回アコム	債券	日本	社債	5.8
6	第48回韓国産業銀行(2018)	債券	日本	特殊債	5.8
7	第16回東京センチュリーリース	債券	日本	社債	5.8
8	第15回Zホールディングス	債券	日本	社債	5.8
9	第5回イオンフィナンシャルサービス	債券	日本	社債	5.8
10	第8回ケーティー	債券	日本	社債	5.8
組入銘柄数			19銘柄		

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

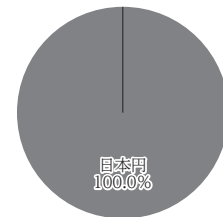
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



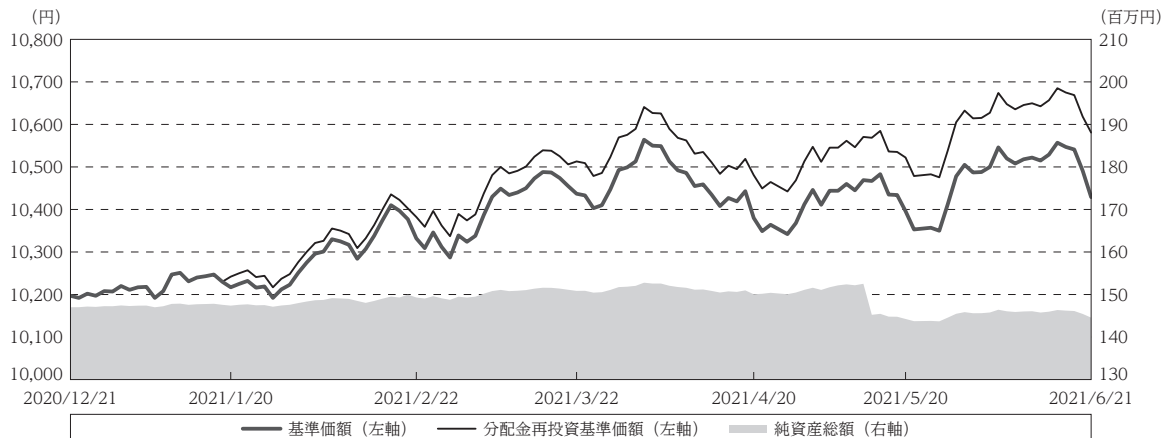
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含まみます。

〈テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース〉

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2020年12月22日～2021年6月21日)



第120期首：10,197円

第125期末：10,429円 (既払分配金(税込み)：150円)

騰落率： 3.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2020年12月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドが投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主な投資対象ファンドである「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド」(以下、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドといいます。)の円建て外国投資証券「Class I (Mdis) JPY」(以下、JPYクラスといいます。)の分配金再投資基準価額が値上がりしたことから、当ファンドの分配金再投資基準価額は上昇しました。詳しくは後掲の「■投資環境」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等からのインカムゲイン
- ・投資を行っている新興国を含む世界各国の国債、政府機関債等の価格変動
- ・投資を行っている先進国通貨および新興国通貨の対米ドルの価格変動

1 万口当たりの費用明細

(2020年12月22日～2021年6月21日)

項 目	第120期～第125期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	55 円	0.535 %	(a) 信託報酬 = [作成期間の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(11)	(0.110)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(43)	(0.411)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用 = $\frac{[\text{作成期間のその他費用}]}{[\text{作成期間の平均受益権口数}]}$
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	その他費用 ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	55	0.539	
作成期間の平均基準価額は、10,368円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

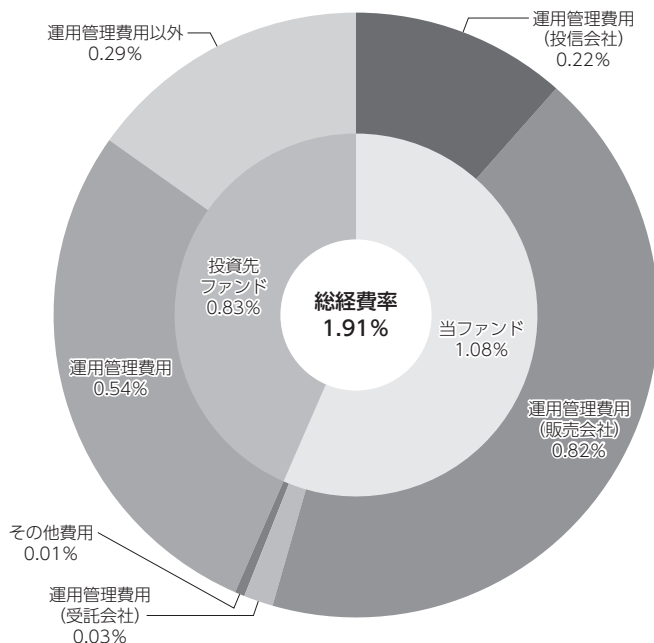
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.91%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.91
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.54
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.29

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

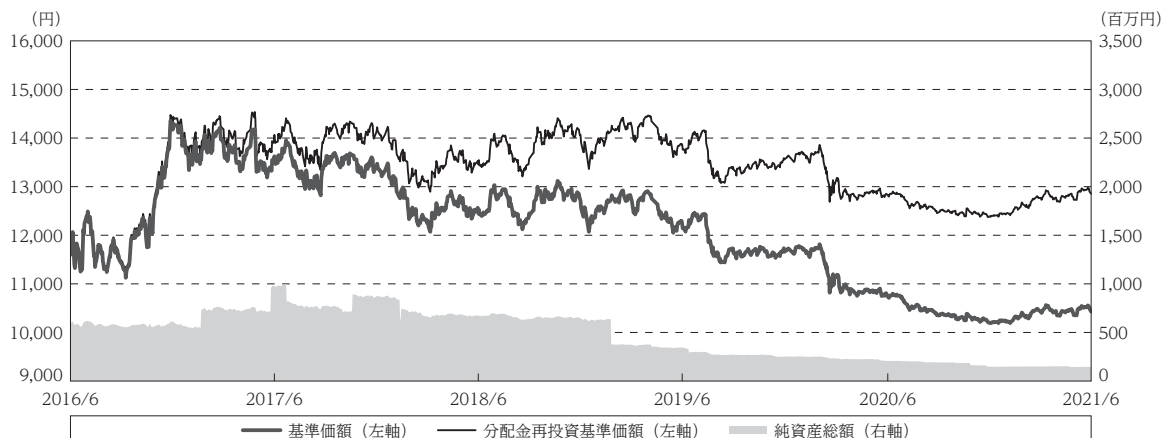
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年6月20日～2021年6月21日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年6月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年6月20日 決算日	2017年6月20日 決算日	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日	2021年6月21日 決算日
基準価額 (円)	11,596	13,625	12,449	12,225	10,738	10,429
期間分配金合計(税込み) (円)	—	420	600	600	600	325
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	21.3	△ 4.3	3.0	△ 7.4	0.2
純資産総額 (百万円)	592	984	670	344	206	144

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」に投資するファンド・オブ・ファンズです。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2020年12月22日～2021年6月21日)

(債券市場)

当作成期の米国債券市場は、中長期債を中心に利回りが上昇（価格は下落）しました。

期の前半は、新型コロナウイルスのワクチンが実用化されるとの期待が高まり、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことから、利回りは上昇しました。また、バイデン新政権による追加景気対策に対する期待により、国債増発の観測が広がったことから、利回りの上昇が続きました。

期の半ばは、ワクチン普及による経済活動の正常化や景気回復による物価上昇の可能性が意識されたことなどから、利回りは下支えされました。

期の後半は、足元のインフレは一時的との見方などから利回りは低下（価格は上昇）する場面もありましたが、2021年6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）がタカ派的と受け止められたことなどから利回りの低下は限定的となりました。

欧州債券市場は、中長期債を中心に利回りが上昇しました。

期の前半は、概ね一進一退の展開となりましたが、新型コロナウイルスのワクチン実用化による世界景気の回復期待が広がり、投資家のリスク回避姿勢が後退する場面で利回りは上昇しました。

期の半ばは、バイデン政権の景気対策効果に対する期待などから米国債利回りが上昇した影響で、ドイツの国債利回りも上昇しました。

期の後半は、欧米各国などでのワクチン接種の進展により、引き続き世界景気の回復期待が広がったことなどが、利回りを下支えしました。

新興国債券の利回りは、新型コロナウイルスのワクチンへの期待と主要先進国債券の利回りが上昇したことから、利回りは全般に上昇しました。

(外国為替市場)

当作成期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。

期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融緩和策の長期化観測が広がる中、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、米国債利回りが上昇し、日米金利差の拡大が意識されたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。

期の半ばは、米国債利回りが上昇基調で推移し、日米金利差が拡大したことから、米ドルは対円で上昇しましたが、その後FRBによる金融緩和策の長期化が改めて意識されたことなどから、米ドル売り・円買いが一時優勢となる局面がみられました。

期の後半は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による米国景気の回復期待が高まる中、米ドルは底堅い動きとなりました。

当作成期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。

期の前半は、一進一退の動きとなりましたが、新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待が高まり、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。

期の半ばから後半にかけては、欧州主要国でワクチンの普及が加速し、景気の回復期待が広がったことなどから、ユーロは対円で上昇しましたが、2021年6月のFOMCがタカ派的と受け止められ、米ドルが対ユーロで上昇したことなどから、期末にかけてユーロは対円で下落しました。

新興国通貨は、対円で概ね上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年12月22日～2021年6月21日)

(テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Yクラス」を高位に組み入れました。また、「日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)」受益証券への投資も行いました。

(投資対象ファンド：テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド J P Yクラス)

<国・地域配分>

主な国・地域別配分については、韓国、インドネシア、ノルウェー、メキシコ、日本などへ投資しました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、米ドル、韓国ウォン、円などを買建する一方で、ユーロなどを売建しました。

<信用格付別配分>

主な配分については、投資適格債を中心に、非投資適格債も一部組み入れました。

(2021年5月末時点)

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定))

主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し信託財産の安定的な成長を目指して安定運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年12月22日～2021年6月21日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2020年12月22日～2021年6月21日)

当作成期の収益分配は次表の通りです。第120期から第124期については、配当等収益を中心に分配を行いました。第125期につきましては、配当等収益に加え、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定いたしました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第120期	第121期	第122期	第123期	第124期	第125期
	2020年12月22日～ 2021年1月20日	2021年1月21日～ 2021年2月22日	2021年2月23日～ 2021年3月22日	2021年3月23日～ 2021年4月20日	2021年4月21日～ 2021年5月20日	2021年5月21日～ 2021年6月21日
当期分配金	25	25	25	25	25	25
(対基準価額比率)	0.244%	0.241%	0.239%	0.240%	0.240%	0.239%
当期の収益	25	25	25	25	25	25
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	6,756	6,766	6,775	6,787	6,795	6,805

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース)

「テンプレートン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース」は、当ファンドの運用の基本方針にもとづき、「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」および「日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)」へ投資を行います。「テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス」への投資比率は高位を維持する方針です。

(投資対象ファンド: テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンド JPYクラス)

○市場見通し(2021年5月末時点)

新型コロナウイルス向けワクチン接種の普及が世界各地に拡がることで、経済状況も引き続き回復に向かうと考えています。人々の活動が再開し始めることで、経済活動も2021年下半年に活発化すると期待しています。新型コロナウイルスの抑制状況は国によって異なるため景気回復の状況もまちまちなと思われるかもしれませんが、引き続きアジア諸国がグローバル経済の回復をけん引し、出遅れていた米国経済についても急回復が予想されます。

運用チームでは2021年の世界経済の成長率は6%程度となり、新興国市場の成長率が先進国市場を上回ると予想しています。世界の国内総生産(GDP)成長率は2022年、2023年と緩やかになる可能性が高いものの、コロナ禍から景気が正常のペースに戻る中、世界経済の成長率は過去10年の平均もしくは平均を上回る水準で推移すると考えます。

○運用方針

基本戦略においては、ポートフォリオのデュレーションは短めに維持します。強固なファンダメンタルズを有し、魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の現地通貨建ての債券や一部の先進国の債券を中心に選別的に保有します。なかでも韓国、インドネシアなどの現地通貨建て債券を保有しています。また、通貨では、韓国ウォン、円、人民元、ノルウェークローネ、米ドルなどをロングとし、ユーロをショートとしています。

新型コロナウイルス向けワクチンが普及することで経済活動の回復が期待されることから、特にアジア諸国について前向きな見通しを持っています。今後もマクロ経済のファンダメンタルズやE S G要因を精査し、中長期的に投資妙味がある国の発掘に努めてまいります。

(投資対象ファンド：日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）)

今後も引き続き、主として日本短期債券マザーファンドを通じて、わが国の公社債・金融商品に投資し、信託財産の安定的な成長をめざして安定運用を行う方針です。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社は、2021年4月1日にレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社と合併し、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社となりました。

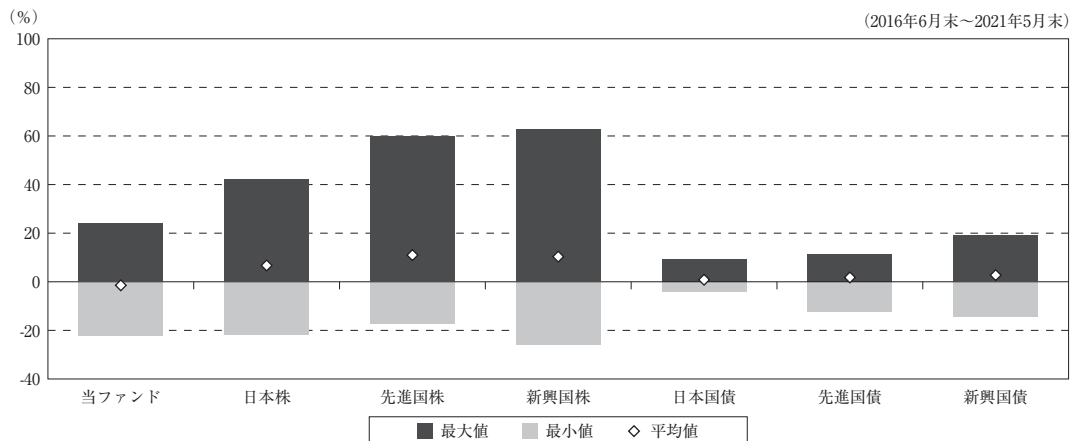
委託会社の合併に伴い、ファンドの委託者の商号を変更することに伴う所要の約款変更を行いました。(2021年4月1日付)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	①フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドの円建て外国投資証券Class I (Mdis) JPY ②日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券
	フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis) JPY	世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等
	日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）	日本短期債券マザーファンドの受益証券を通じてわが国の公社債、金融商品に投資
運用方法	主として、外国投資証券である「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド（Class I (Mdis) JPY）」への投資を通じて、世界各国（新興国を含む）の国債および政府機関債等に実質的な投資を行います。また、証券投資信託である「日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）」の受益証券への投資も行います。 外国投資証券への投資は高位（概ね信託財産の純資産総額の90%以上）を維持することを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎月20日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託者が毎計算期末の基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。なお、6月および12月以外の月の決算時の分配については、原則として配当等収益を中心とするものとします。また、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	24.2	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 22.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 26.0	△ 4.0	△ 12.3	△ 14.5
平均値	△ 1.5	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年6月から2021年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・デバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

<テンプレトン世界債券ファンド 毎月分配型・為替ヘッジなしコース>

組入資産の内容

(2021年6月21日現在)

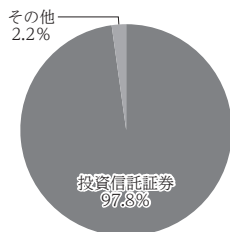
○組入上位ファンド

銘	柄	名	第125期末
			%
フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ	テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド Class I (Mdis)	JPY	97.2
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)			0.6
組入銘柄数			2銘柄

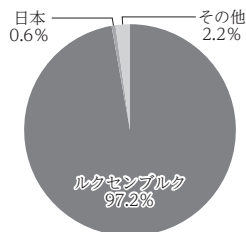
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

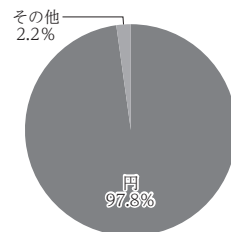
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

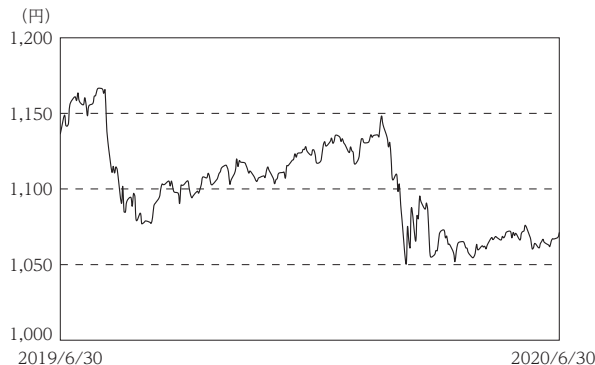
項目	第120期末	第121期末	第122期末	第123期末	第124期末	第125期末
	2021年1月20日	2021年2月22日	2021年3月22日	2021年4月20日	2021年5月20日	2021年6月21日
純資産総額	147,386,529円	149,306,268円	150,852,993円	150,063,432円	144,251,163円	144,566,288円
受益権総口数	144,259,622口	144,512,513口	144,537,388口	144,564,945口	138,754,738口	138,625,935口
1万口当たり基準価額	10,217円	10,332円	10,437円	10,380円	10,396円	10,429円

(注) 当作成期間(第120期~第125期)中における追加設定元本額は3,322,492円、同解約元本額は8,869,039円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズーテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド
(2019年7月1日～2020年6月30日)

○基準価額の推移



(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2019年7月1日～2020年6月30日)

項 目	比 率
運用報酬	0.55%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.30%
合計	0.85%

(注) 当ファンドが投資対象とする Class I (Mdis) JPY の数値です。
(注) 1 万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

○上位 10 銘柄

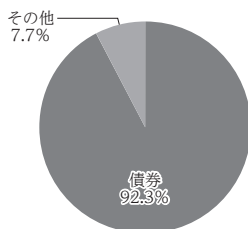
(2020年6月30日現在)

銘 柄 名	通 貨	比 率
Government of Sweden, 1047, 5.00%, 12/01/20	スウェーデンクローナ	6.71%
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 12/10/29	韓国ウォン	5.74
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 08/11/20	日本円	5.59
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 08/24/20	日本円	5.54
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 09/10/20	日本円	5.16
Government of Mexico, senior note, M, 7.25%, 12/09/21	メキシコペソ	3.45
Korea Treasury Bond, senior note, 1.375%, 09/10/21	韓国ウォン	3.43
Government of Mexico, senior bond, M, 6.50%, 06/09/22	メキシコペソ	3.22
Letra Tesouro Nacional, Strip, 07/01/20	ブラジルリアル	3.14
Japan Treasury Discount Bill, 0.00%, 07/06/20	日本円	3.08
組入銘柄数	80銘柄	

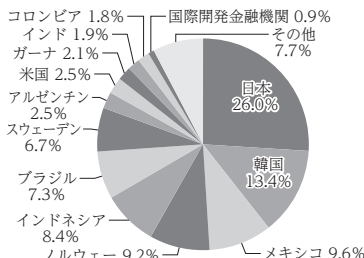
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

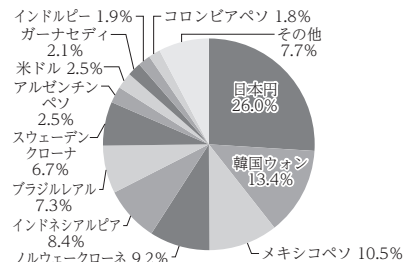
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

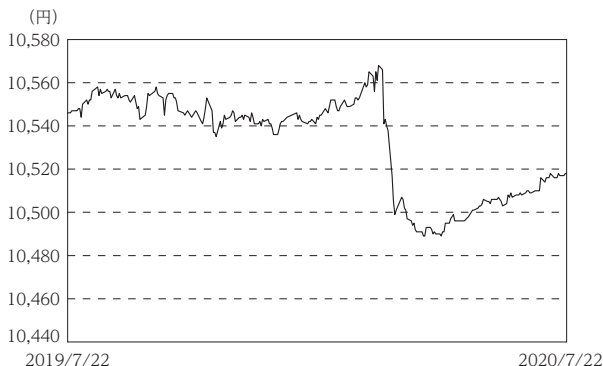


(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2020年6月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）（2019年7月23日～2020年7月22日）

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

(2019年7月23日～2020年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	15 (12) (1) (2)	0.143 (0.110) (0.011) (0.022)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用)	0 (0)	0.003 (0.003)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	15	0.146	
期中の平均基準価額は、10,532円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

以下のデータは、日本短期債券ファンド（適格機関投資家限定）の主要投資対象である日本短期債券マザーファンドの内容です。

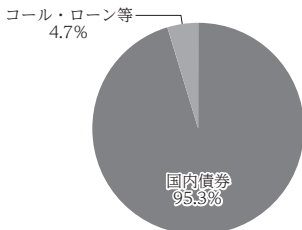
○組入上位10銘柄

(2020年7月22日現在)

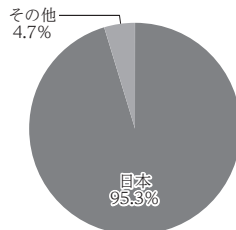
	銘柄	種類	国	業種／種別	比率 %
1	第19回みずほ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	6.0
2	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
3	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.9
4	第17回シティグループ	債券	日本	社債	5.9
5	第75回アコム	債券	日本	社債	5.8
6	第48回韓国産業銀行(2018)	債券	日本	特殊債	5.8
7	第16回東京センチュリーリース	債券	日本	社債	5.8
8	第15回Zホールディングス	債券	日本	社債	5.8
9	第5回イオンフィナンシャルサービス	債券	日本	社債	5.8
10	第8回ケーティー	債券	日本	社債	5.8
組入銘柄数			19銘柄		

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

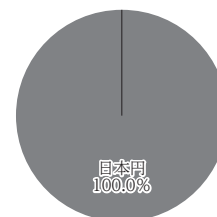
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含まみます。



FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプレトンは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン・テンプレトンの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。